

# 令和4年度（1期）一般選抜入学試験問題【第2日】

## 国語総合・現代文B

（時間 60分 配点 150点）

### 受験上の注意事項

- 【1】試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 【2】受験票及び机上の受験番号シールに印刷された受験番号及び氏名が間違っていれば、速やかに監督者に知らせなさい。
- 【3】この問題冊子は、本文が19ページあります。  
問題冊子の印刷が不鮮明であったり、ページが落丁・乱丁していたり、解答用紙に汚れ等があったりする場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 【4】机上には受験票・筆記用具及び時計等監督者から指示された物以外は置いてはいけません。
- 【5】監督者の指示があるまで退室はできません。
- 【6】解答用紙の解答科目欄の「国語」にマークしなさい。マークされていなかったり、複数の科目にマークされていたりする場合は、採点できないことがあります。
- 【7】解答用紙については、特に次の点に留意しなさい。
  - ① マークには必ず黒鉛筆（HB）を使用しなさい。
  - ② 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。例えば、第2問の 

ア
---

 と表示のある問いに対して ③ と解答する場合は、次の例のように問題番号 

2
---

 の解答欄アの ③ にマークしなさい。

例

2	解 答 欄									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ア	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	

- ③ 折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
  - ④ 解答用紙には、答案に関係のない語句・記号を書いたり、落書きをしたりしてはいけません。（問題冊子には書き込んでよい。）
  - ⑤ 誤ってマークした場合は、消しゴムできれいに消して書き直しなさい。
- 【8】試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

令和四年度 入学試験問題 第二日

国語総合・現代文B

第1問 次の文章を読んで、後の問（問一～問六）に答えよ。

デジタル・デザインの立場から2005年に<sup>(注1)</sup>マーシャルによって書かれた紙媒体での読みの分析は示唆に富む。2005年といえば、アメリカでも電子書籍やデジタル教科書が急速に普及し始めた時期である。その時点で彼女は紙媒体での読みの特徴を分析することで、何をデジタル媒体での読みにデザインしていくべきなのかを考えたのである。

マーシャルによると、読みには四つの特徴がある。まず一つ目は、移動性である。実は読むという行為は非常に移動性を持ったものだという。確かに本はどこにでも持ち運びが便利で、読むという行為は場所を選ばない。人は通勤・通学の途中や旅行の時に読む行為をよく行う。2001年にマーシャルが行った調査では、当時、コンピューターのデジタル・ファイルを印刷して読むと答えた人の90%近くが、どこでも好きなどころ、または必要な場所（会議室など）に持っていることをその理由に挙げたという。デスクトップのコンピューターの前に拘束されることが重要だったのだ。この問題は、小型のラップトップ、タブレット、そしてスマートフォンの普及で解決されることになる。

読みの二つ目の特徴は、紙の媒体の持つ質感である。身体性といいかえてもいい。ページをめくった時の紙の感触や、何ページぐらいある本で、どれくらい読み進めたかなど、本の物理性を視覚的・触覚的に感じることである。「あのセリフは、本を三分の一ほど読み進めたあたりの、ページの左上のほうだった」などという記憶は読者もあるだろう。こうした読みに関わる空間記憶のようなものは、スクロールで流動するデジタル・テキストより、空間が固定されている紙の上での読みのほうが定着度が高い。これは非常に重要な点だ。最近では、ページ数を表示したり、<sup>(注2)</sup>ブックマーク機能

をつけたりした電子書籍も多くなってきたが、それでも、なかなか物理的な本とは同じ感覚・記憶を持っていないようなのである。一部の電子書籍では、実際の本のページのようなレイアウトにするなど、さまざまな工夫がされているが、この物理性・身体性はデジタル・デザイン上の大きな課題であろう。結局、<sup>ア</sup>本は情報であると同時にモノなのだ（少なくとも今のところは）。

三つ目の特徴は、対話性（インタラクティブさ）である。私たちはテキストを読む時、しばしば重要な部分や心に残った部分にアンダーラインをひいたり、ハイライトしてみたり、丸で囲ったりする。また、疑問に思う箇所にクエスチョン・マークをつけてみたり、余白にメモを残したりする。こうした行為は、テキストとの対話と考えてもいい。このような対話をテキストと行うことは、特に学習の場面などでは、批判的な思考（クリティカル・シンキングといわれるもの）を培うために、非常に重要だと考えられている。マーシャルの聞き込み調査によると、こうしたテキストとの対話を行う際に、ペンの形でできることが大切らしい。最近のデジタル・テキストや電子書籍には、ハイライトをしたり、メモをつけたりする機能がついているが、マウスやタッチパネルでの操作は、ペンでの操作とは同じではないらしい。

最後の特徴は、共有（シェアリング）である。「読む」は、個人の行為のような印象を持っている人が多いかもしれないが、本来はかなり社会性のある行為であることが指摘されている。そもそもどんな本やテキストを読むかの選択も、その人が属している社会やコミュニティの影響を大きく受ける。小学校の国語の授業で、クラス一斉に音読することをはじめ、実は私たちは多くの場面で、他人と読みを共有している。面白かった本を友達に貸すのもその一つだ。教員なら、子どもたちが、コンピューター・ルームで一人一台ずつパソコンがあるにもかかわらず、わざわざ一台の前に二、三人が集まって、一緒に画面を見ているなどという光景をよく見かけるだろう。デジタル・テキストでは、複数の友だちとファイルを共有したり、お互いのコメントを見えるようにするなど、人と人とを双方向でつなぐツール機能が発展してきた。

このように、<sup>イ</sup>マーシャルの指摘する四つの読みの特徴は、デジタル上での読みの可能性と課題を明確化し、デジタル・デザインの進化の中で活かされてきた。紙とデジタル媒体での読みの差が縮まってきた要因の一つだ。

ただ、本の持つ物理性・身体性のメリットはなかなかハードルが高い。特に一ページにおさまりきらない長さのテキストで、テキスト内の異なるページを移動したり、パラパラとページをめくってみたり、複数のテキストの必要なところを読み比べたりなどという行為を行う際には、現在のテクノロジー技術をもって、紙媒体の優位性が浮きでてくる。  
(注3) 柴田と (注4) 大村が行った一連の実験では、デジタル媒体では、紙の媒体と比べ、マウスやタッチパネル等での操作に認知負荷が多くかかり、その結果、本来の認知活動（読解）への集中が途切れ、効率が落ちることが示されている。

**A**、デジタル媒体で読む時には、ページをめくるのに、画面の端をタップしたり、スワイプしたりする必要があるが、人はページをすべて読み終わってから、そうした操作に取りかかる。視線もその際、テキストから一時離れる。一方、紙の媒体で読んでいる時は、人は無意識のうちに、ページを読み終わる前にすでにページめくりを始めているという。ページをつかんで効率よくめくれるよう準備していたり、文書末の注釈などがある場合には、もとのページにすぐ戻るように、あらかじめ指を挟んでいたりする。柴田と大村の実験では、特定のページに戻るためにかかった時間は、紙媒体での読みではパソコン上での読みに比べて36・5%早く、タブレット上での読みに比べて38・6%早かった。

さらに興味深いことに、人が紙のテキストを読んでいる時、紙を持つ手の位置を詳しく観察してみると、往々にして手の位置は、その時読んでいる行の位置と一致していた。**B**、手の位置が、読みの視線を誘導する役割を果たしていたのである。こうした手の役割が、認知資源の有効な使い方につながっている。私たちは、テキストを読む時、目だけでなく、手で読んでいたのである。

マーシャルのいう **X** も、実は物理性・身体性と深く関係している。私たちは読む際に、しばしば無意識に、単語や文を指やペンなどで指し示したり（ポインティング）、なぞったりしている。柴田・大村の実験によると、誤字脱字などの校正をするタスクをしてもらった時には、紙媒体ではポインティングやなぞりがデジタル媒体での読みより多く、誤字脱字を検出できた割合も高い。校正作業の中でも、誤字脱字といった比較的表面的な読みでできるものではなく、意味や文脈のつながりのチェックなど、深い読みを要求する校正では、紙とデジタルのパフォーマンスの違いがさらに広が

るという。面白いことに、紙媒体での読みでも、ポインティングやなぞりができないように制限をかけると、校正のパフォーマンスが落ちる。

**C**、横書きの紙媒体のテキストに書き込みをしたり、テキストをなぞったりする時の様子を観察すると、多くの人はテキストを水平ではなく、少し傾けてこのような行為を行っているという。読みのスピードと理解のパフォーマンスが一番良いのは、右利きの人の場合は、時計反対回りに5度程度テキストを傾けた場合で、左利きの場合は、その逆方向になる。

柴田・大村は、読みのパフォーマンスを上げるために、私たちは目よりも手の動きの適合を重視していると言っている。つまり、目にとつては水平でなくても、テキストと対話をしやすいよう、手による操作の使いやすさが優先されるというのだ。同じ結果は英語のテキストを読んだ時にも見られたことから、柴田・大村は、手で扱いやすいように文書を傾ける行為は、言語の種類に依存するものではなく、手の動かし方に依存するものだと言っている。ここでも読みの身体性が強く支持されているといえるだろう。

(バトラー後藤裕子著『デジタルで変わる子どもたち ―学習・言語能力の現在と未来』に基づく)

(注) 1 マーシャル……Catherine C. Marshall。専門はハイパーテキスト研究。ハイパーテキストとは、コンピューターを利用した文書作成・閲覧システムの一つで、複数の文書を相互に関連付ける仕組みのこと。

2 ブックマーク機能……ここでは電子書籍の端末におけるしおり機能のこと。

3 柴田……柴田博仁。認知科学者。

4 大村……大村賢悟。認知心理学の研究者。

問一 傍線部ア「本は情報であると同時にモノなのだ」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、ア。

- ① 本は文字などの視覚的な情報を提供するだけでなく、紙による物理的な感覚を提供する媒体である。
- ② 本は空間記憶という情報を提供するだけでなく、電子書籍に見られるような物理性・身体性を提供する媒体である。
- ③ 本は紙の質感や身体性という情報だけでなく、ブックマークのような物理的な機能も併せ持った媒体である。
- ④ 本は視覚的・感覚的な情報だけでなく、デジタル・テキストが持っている質感も併せ持った媒体である。

問二 傍線部イ「マーシャルの指摘する四つの読みの特徴は、デジタル上での読みの可能性と課題を明確化し、デジタル・デザインの進化の中で活かされてきた」とあるが、紙媒体での読みの特徴に関するマーシャルの知見は、具体的にどのような活かされてきたというのか。その説明として不適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、イ。

- ① 読むという行為の場所を選ばない特徴に合わせて、小型のラップトップ、タブレット、スマートフォンなど、持ち運びが可能な機器の普及が進められていった。
- ② 本のページをめくる際の視覚的・触覚的な感覚を取り入れるために、デジタル・テキスト上にページを表示したり、ブックマーク機能を付与したり、またレイアウトそのものを本に似せたりするなどの改善が進められていった。
- ③ テキストと対話しながら読むということが紙の本と同等にできるよう、筆記具のペンで書くのと同じ感覚でマウスやタッチパネルを操作して、ハイライトしたりメモをつけたりできるようになった。
- ④ 読みの共有化を可能にするために、デジタル・テキストをファイル共有したり複数人のコメントを相互に閲覧できるようにしたりといった、読者を双方向でつなぐ機能が発展してきた。

問三 空欄 **A** ～ **C** に入る最も適切な言葉を、次の①～⑦の中からそれぞれ一つ選べ。ただし、同じものを繰り返してはならない。解答欄は、**A** **ウ**・**B** **エ**・**C** **オ**。

- ① ところが      ② つまり      ③ したがって      ④ だから      ⑤ さらに      ⑥ ただし      ⑦ たとえば

問四 傍線部ウ「私たちは、テキストを読む時、目だけでなく、手で読んでいたのである」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、**カ**。

- ① 本を読む際に、ページを読み終わる前に手で無意識に次のページをめくり始めたり、もとのページに戻れるように指を挟んだりすることで、目で読んだ内容を手で記憶するという読みを実現している。
- ② 本を読む際に、紙を持つ手の位置をそのとき読んでいる行の位置に一致させることで、目による認知活動から手による認知活動へと転換し、テキストから視線を離しても読解できるように効率化を図っている。
- ③ 本を読む際に、無意識のうちに次に読むページを手でめくり始めたり、もとのページに戻れるように指を挟んだり、今読んでいる行の位置に手を合わせたりすることで、読みの効率を高め、テキストの認知を助けている。
- ④ 本を読む際に、目で見えて理解することよりも手による操作での理解を優先することで、認知資源を有効に使って読みのスピードと理解のパフォーマンスを高めている。

問五 空欄 **X** に入る言葉として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、**キ**。

- ① 移動性      ② 社会性      ③ 優位性      ④ 対話性

問六 本文に書かれている内容の説明として不適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、ク。

- ① 紙媒体での読みの四つの特徴を、重要度の低いものから高いものへという順序で並べるとともに、三人の科学者の知見が発表された年代の順序で並べること、デジタル・テキストの開発の背景を示そうとしている。
- ② 紙媒体での読みとデジタル媒体での読みの違いを対比的に示すことで、デジタル・テキストをデザインする上での課題を明らかにしようとしている。
- ③ マーシャルが指摘した紙媒体での読みの四つの特徴について、主に二つの特徴を取り上げて詳しく論じることで、デジタル・テキストのデザインで特に大きな課題となる問題を示そうとしている。
- ④ 取り上げた話題について、先行研究の内容をかみくだいて紹介することで、客観的な事実に基づきながら紙媒体での読みの特徴を示そうとしている。



第2問 次の文章を読んで、後の問（問一～問六）に答えよ。

市場社会において、誰が必要とするもの・必要とするものを提供している、ということとは、提供したものを買う人がいて、はじめて確認される。このことは、たとえば私がコツコツと靴を仕上げ、その買い手が現れて代価を払ってくれる、といった事例においては、なんらアンフェアなものを秘めていないように見える。

もちろん、私が靴を仕上げるときに用いた皮が、どこで・どのように死んだ動物から剥がされて、どのようにして私が買える材料になったのか、という過程を微細に追跡したならば、もしかしたら、そこにはアンフェアと疑われる出来事が関与しているかもしれない。しかし、**A**皮が商品として市場に登場した後の過程にかぎれば、私が皮を購入して加工し、出来上がった靴を市場に出して、その代価を得るといふ過程には、とりたててアンフェアなものがあるようには思えない。

しかし、すべての働きにかんして、そう言えるとはかぎらない。いま、あなたは、山林の手入れをする仕事をしている、としよう。あなたの、この仕事は、社会的にきわめて有用である。森林を保全するということは、熱帯雨林にくらべると微々たる量だとはいえ大気中に酸素を供給し、山の保水能力を維持して災害を防ぎ、沿岸海域に養分を供給して漁場を維持する等々、さまざまな形で、それこそ誰が必要としているものを提供している。

では、あなたは、市場社会において、この重要な働きの代価をどのように得ることができのだろうか。それは他でもない、樹木を伐採したときに、その木材の買い手が現れるとき、またそのときにかぎってのみ、あなたは、辛うじて自分の働きへの代価を得ることができ。もし木材への需要が激減すれば、あるいは安価な代替木材が市場にもち込まれたら、**B**、いくら一生懸命に森林を保全し続けたところで、あなたはまったく代価を得ることができない。相変わらず誰が必要とするものを提供し続けているにもかかわらず、である。ここには、市場経済に特有の問題が露呈している。すなわち、労働の対価の一部が支払われない、という問題である。

大気中の酸素、山の保水能力、沿岸海域に流れる養分といったものは、すべて掛け値なく、誰もが必要としているものである。それらの供給が途絶えるなら、確実に万人が困窮する。しかし、市場社会においては、これらを提供する働きそのものに対しては、一文の代価も支払われない。それは他でもない、大気中の酸素、山の保水能力、沿岸海域への養分のどれをとつても、それらを売ってくれという買い手が現れないから、である。

「社会的に有用」だということは、誰もが必要とする・必要としうる、ということである。ゆえに、社会的に有用なら、少なくとも誰かは買う。すなわち、社会的に有用であるなら、買い手がつく。これが、市場社会の基本法である。そうであるかぎり論理必然的に、買い手が見つからないなら、社会的に無用だ、ということになる。

この「不条理な事実」は、経済学では、つぎのように説明されてきた。いわく、森林を保全する労働がそうであるように、ある経済活動は、市場で対価を受け取ることなしに、他の経済主体に恩恵（あるいは被害）を与えることもある。こうした対価なき授受は、「外部経済」あるいは「外部不経済」と呼ばれるのだが、市場経済には、多かれ少なかれ、こうした「外部性」がともなう、云々。<sup>（注1）</sup>

ここでは市場経済そのものについては論じない。しかし、二つのことだけは確認しておかねばならない。第一に、いかに重化学工業化が進んだとしても、たとえば化学合成物の分解過程の問題（いわゆる<sup>（注1）</sup>環境ホルモンの問題）ひとつとっても明らかのように、人間の経済活動もまた、継ぎ目なき生態系の複雑な網の目に依存している。一九世紀ならいざ知らず、この期に及んでなお「外部性」の問題を、**C** 少数の例外事例であるかのように扱って、市場をつうじた配分の合理性を強調するとしたら、それはむしろ知の<sup>（注2）</sup>退嬰<sup>（たいえい）</sup>にさえつうじよう。

第二に、より重要なのは、「外部不経済」の処理であるよりも、むしろ「外部経済」（対価なき利益の提供）の処遇のされ方である。外部不経済の場合は、公害に典型的に見られるように、被害をこうむった人々の側から損害の補償が要求され、加害の防止が求められる。したがって経済理論の側でも、そうした費用負担を、たとえば「排出権の売買」といった形で「内部化」していくシナリオを比較的考案しやすい。しかし、「外部経済」の場合、その恩恵は、森林保全の労働の

場合にそうであるように、C 自然現象であるかのごとく、視野の外におかれてしまう。

なるほど、ハチが花の蜜を集めて巣にもどるのは、自然現象でしかない。したがって、花を育てる仕事、養蜂業者に對して外部経済（対価なき利益の提供）の關係にあるとしても、そうした外部性は、自然現象の一環と見なしても大過ないように思える。しかし、外部経済を、すべてそう見なしてかまわないのではない。

先の例で続けて言えば、木材の価格が下がり続けるので、あるいは安価な代替木材が出回ってきたので、森林を保全する仕事ですたれた、としよう。すると、山の保水能力が減退して土砂くずれや洪水が頻発し、沿岸海域への養分の供給が途絶えて漁場が枯渇する。その結果、年々、ぼうだい 厄大な災害対策費が積み込まれ、大衆魚が値上がり続ける。

このように、森林を保全する仕事の外部経済は、X の一環であるかのごとく見なされて、そうした貢獻に對しては対価が支払われないがゆえに、その仕事そのものが衰退する。

しかるに、こうした衰退は、標準的な経済学によれば、不採算部門からの労働力の撤退という、市場の合理的な調節作用として描かれる。のみならず、そうした外部経済の途絶によってもたらされた巨大な外部不経済は、経済学的には、災害対策事業の拡大や大衆魚の値上がり等々の形で、むしろ国内総生産の増加として描かれる。

このように、ウ 継ぎ目なき生態系の働きをつうじた外部経済にかんしては、たんなる自然現象であるかのように扱われることよって、そうした外部経済の途絶によってもたらされた巨大な不利益は、廃棄物による環境汚染・公害のような外部不経済のように、直接に被害をうけた人々が訴えて市場の問題としてあらわになることがきわめて難しい。もし、経済学が生態学と協同して事態の究明にあたるなら、こうした外部性の問題は、もっか思われているより、はるかに複雑にして巨大であることが判明するはずである。

（大庭健著『いま、働くということ』おわたけしに基づく）

（注） 1 環境ホルモン……生体内にとりこまれると、ホルモンに似た働きをする化学物質。生物界で近年観察されているオスのメス化や生殖行動異常の原因ではないかと疑われている。

2 退嬰……進んで新しいことに取り組もうとする意欲に欠けること。

問一 空欄 A 〽 C に入る最も適切な言葉を、次の①〽⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを

繰り返し使用してはならない。解答欄は、A ア ・ B イ ・ C ウ。

- ① まさか      ② もはや      ③ 一たび      ④ あたかも      ⑤ 必ずしも

問二 傍線部ア「不条理な事実」とは何を指しているのか。その説明として、最も適切なものを次の①〽④の中から一つ

選べ。解答欄は、。

- ① 人間の経済活動が、環境ホルモン問題を引き起こすこと。  
② 誰しが必要としているものの供給が途絶えることにより、確実に万人が困窮すること。  
③ 誰が必要とするものを提供している者が、その貢献に相当する対価を得られないこと。  
④ 市場をつうじた配分の合理性が優先され、経済活動によりもたらされる直接的な被害が黙殺されること。

問三 傍線部イ「外部性」の例として不適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、オ。

- ① 養蜂業者のハチが園芸業者の花畑から蜜を集めたが、対価の授受は行われなかった。
- ② 企業が排出した廃棄物が環境を汚染し、近隣住民は健康被害を受けたが、補償費は支払われなかった。
- ③ 木材需要の激減で木材価格が下落し続け、労働の対価が十分に得られなくなったため、林業が衰退した。
- ④ 山林を手入れし木材を販売する仕事のおかげで、酸素や山の保水能力、沿岸海域への養分が対価なしに供給された。

問四 空欄Xに入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、カ。

- ① 社会問題
- ② 自然現象
- ③ 経済理論
- ④ 市場原理

問五 傍線部ウ「外部経済の途絶によってもたらされた巨大な不利益」とあるが、どのような「不利益」を指しているのか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、キ。

- ① 木材の供給が途絶えることで、市場に木材が出回らなくなったことから生じた不利益。
- ② 市場での原材料購入や製造・販売の過程に、アンフェアな取引が含まれていたことから生じた不利益。
- ③ 外部経済の抱える問題を例外事例として扱い、生態学との連携を拒んできた経済学によってもたらされた不利益。
- ④ 沿岸海域の水産資源の減少や自然災害のような、森林保全が行われなくなることでもたらされた不利益。

問六 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から二つ選べ。ただし、順序は問わない。

解答欄は、ク・ケ。

- ① 外部経済が生態系の働きと密接な関係にある場合、自然現象のごとく扱われることによって、労働の対価の部分的な不払いという側面が見えにくくなっている。
- ② 市場社会は、市場経済に参画していない人々との関係において大きな問題をはらんでおり、その欠陥を補うような政策を模索する必要がある。
- ③ 外部経済は他の経済主体に利益を与えるのに対して、外部不経済は他の経済主体に被害を与えるため、その対処方をより慎重に考えなければならない。
- ④ 市場社会においては、万人が必要とするものを提供していても買い手がつかなければ、社会的に有用なものを提供しているという確証を得られない。
- ⑤ 外部性の問題は、他の経済主体から恩恵あるいは被害を受けた経済主体が、それに見合う対価を支払うことによって解決される。

第3問 次の各問（問一～問七）を読んで、それぞれの指示に従って答えよ。

問一 次のA～Dの傍線部のカタカナと、各群の①～④の傍線部のカタカナが同じ漢字となるものを、それぞれ一つ選べ。

解答欄は、A 

ア
---

・B 

イ
---

・C 

ウ
---

・D 

エ
---

。

A 一人の選手が点をカセいだ。

① 将来にカ根を残す。

② 大型機械がカ働する。

③ 寸カを惜しんで勉強する。

④ 責任を部下にカ転力する。

C 長年の努力がカムクわれる。

① ゴミ処理場はすでにカ和状態にある。

② バラの花が甘いカ香を放つ。

③ 西洋文明をカ模カウする。

④ 選手がカ道陣にカ囲まれる。

B 性カりもなく再び賭け事に手を出した。

① 断カチカウの思いで別れを告げる。

② 委員会でカチカウ罰を下す。

③ 宴会の会費をカチカウ収する。

④ 売り上げをカチカウ簿につける。

D 子カとカワムれる。

① 大学祭でカギ店を出す。

② シェイクスピアのカギ曲を原典で読む。

③ 遠からずカ嫌カが晴れると信じる。

④ カギ式は滞りなく行われた。

問二 次のA～Dの各群において、漢字の読み方(カタカナ表記)が正しくないものを、それぞれ①～④の中から一つ選

べ。解答欄は、A ・B ・C ・D .

A

④	③	②	①
談判	如実	豊穰	穩当
(ダンパン)	(ジョジツ)	(ホウジョウ)	(オントウ)

C

④	③	②	①
謀	矯	絡	賄
(ハカ)	(タ)	(カラ)	(ヌグ)
る	める	む	う

B

④	③	②	①
摘要	確執	広漠	初霜
(チャクヨウ)	(カクシツ)	(コウバク)	(ハツシモ)

D

④	③	②	①
権化	枢要	折衷	今昔
(ゴンゲ)	(クヨウ)	(セツチュウ)	(コンジャク)



問三 次の慣用句を含む文A～Dの□に入る最も適切な語を、それぞれ①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、A □ケ・B □コ・C □サ・D □シ。

A このようなミスを繰り返さぬよう、我々は□を正さなければならない。

- ① 袖
- ② 襟
- ③ 背筋
- ④ 首

B □をくわえてただ見ていることしかできなかった。

- ① 手
- ② 指
- ③ 箸
- ④ さじ

C □から棒に不用意なことを言っではいけない。

- ① 哇あは
- ② 藪やぶ
- ③ 林
- ④ 森

D 彼は社会的成功を収めたにもかかわらず、誰に対しても□が低い。

- ① 目線
- ② 声
- ③ 腰
- ④ 腹

問四 次のA～Dの慣用句の□に入る最も適切な語を、それぞれ①～⑥の中から一つ選べ。ただし、同じものを繰り返してはならない。解答欄は、A □ス・B □セ・C □ソ・D □タ。

A 膝を□ B 枕を□ C 幕を□ D 足を□

- ① 掬すくう
- ② 向く
- ③ 笑う
- ④ 打つ
- ⑤ 押す

- ⑥ 引く
- ⑦ 追う
- ⑧ 濡ぬらす
- ⑨ 括くくる
- ⑩ ひそめる

問五 次のA～Cの各群において、意味の似ているものの組み合わせとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から

一つ選べ。解答欄は、A  ・ B  ・ C 。

A				B			
④	③	②	①	④	③	②	①
議案	名案	提案	起案	夭折	不易	誇大	雄大
答案	妙案	原案	廃案	長命	流行	肥大	壮大

C			
④	③	②	①
嘘も方便	猫に鯉節	急がば回れ	一芸は道に通ずる
嘘つきは泥棒の始まり	猫に小判	急いで事は仕損じる	多芸は無芸

問六 次のA・Bの傍線部と意味・用法の異なるものを、それぞれ①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、A  ト ・ B  ナ。

A 友人と電話で一日中語り合う。

- ① 頼み事を即座に大丈夫だと請け合う。
- ② 困難を前にして皆で協力し合う。
- ③ 知人の紹介で思いがけない人と知り合う。
- ④ 試合が終わり、互いの健闘をたたえ合う。

B 孫たちは祖母の昔話に聞き入った。

- ① 子どもたちが寝入ったころ、サンタクロースがやってくる。
- ② 赤穂浪士が、吉良上野介の屋敷に討ち入った。
- ③ 若者たちは、感じ入った様子でお坊さんの講話を聞いた。
- ④ 神父に諭された泥棒は、心底わが罪を恥じ入った。

問七 次のA～Dの傍線部の語句の意味として最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つ選べ。

解答欄は、A  ニ ・ B  ヲ ・ C  ネ ・ D  ノ。

A プロジェクトの進捗状況が、はかばかしくない。

- ① 望ましい方向に進んでいない
- ② 単調で面白くない
- ③ 説明不足でよくわからない
- ④ 重々しくて不安だ



## 写真・資料等について

### 【一般選抜1期（2日目）】

#### ○国語

- ・第1問 『デジタルで変わる子どもたち ー学習・言語能力の現在と未来』  
バトラー後藤裕子著 筑摩書房刊
- ・第2問 『いま、働くということ』大庭健著 筑摩書房刊